



飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。

まちの話題
いろいろ

1/1

飛騨市ふるかわ元旦マラソンが節目の50回目 感染防止対策を講じて2年ぶりに開催

飛騨市ふるかわ元旦マラソンが、ハートピア古川横を起点に行われました。今年は感染状況をふまえて感染防止対策を講じた上で、第50回目という節目の開催となりました。

接触の機会を減らすためにゼッケンを付けず、開会式も行いませんでした。また集団でのスタートは行わず、受付を済ませた人から順番にスタート。それぞれの体力に合ったコースを選んで走りました。

当日は、雪が降りしきりの中での開催でしたが、スタッフを含めおよそ1000人が参加。思い思いのペースで各コースを走りました。

毎年参加している古川町の谷口大志さんは「元旦マラソンは、自分の中の1年の始まりになっています。無事に1年、健康で過ごしたいという思いで走ります」と話していました。



1/5

「第1回飛騨市うまいお米アワード2021」を開催 美味しいお米の大会で健闘した生産者を表彰

「第1回飛騨市うまいお米アワード2021」の受賞式が市役所で開かれました。

今回の賞は、市内生産者の皆さんの米づくりの底上げとさらなるレベルアップを目指そうというもの。昨年開かれた「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」「飛騨の美味しいお米 食味コンクール」に出品したお米の食味値や味度値の点数が高かったにもかかわらず、惜しくも受賞を逃した生産者にスポットを当て、食味値や味度値の合計点数が高かった順に4人の方を特別賞として表彰しました。

飛騨市長賞に飛騨市うまいお米研究会（有）エイドスタッフの阪口誠一さん、飛騨市議長賞には田中清さん、飛騨市農業委員長賞には飛騨市うまいお米研究会の井下正雄さん、飛騨市食の大使賞には永石智貴さんが選ばれました。



1/11

献血50回以上を迎えた方に感謝状 古川町の牛丸美智代さんと、神岡町の西能明さんに贈呈

令和2年度の期間中に、これまで行ってきた献血の回数の累計が50回を超えた人に対し、その功績をたたえる感謝状が贈られました。今回、感謝状を受けられたのは古川町の牛丸美智代さんと、神岡町の西能明さんです。

牛丸さんは20歳から献血を始めたそうです。「まずは自分が健康でないと献血ができません。献血ができるくらいに、ずっと健康であったことに感謝します」と話されました。

西能さんは、娘さんが献血をしていたことが縁で40歳ぐらいから始めたそうです。「制限年齢に達したので卒業しますが、若い人たちにつないでいてほしい」と話してみえました。

都竹市長は「50回というのは大変な数。おかげで命がだいぶん救われていると思います」と、ねぎらいと感謝の言葉を述べました。



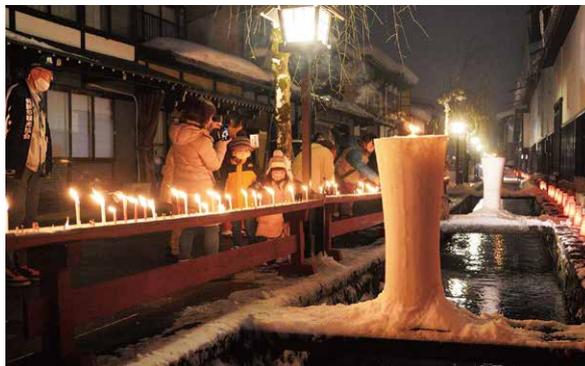
1/15 幻 冬の風物詩「三寺まいり」開催 幻想的な雰囲気の中、家族連れで賑わい

古川町で200年以上続く冬の伝統行事「三寺まいり」が行われました。

新型コロナウイルスの感染対策のため、一部の催しを中止・変更して開催され、地元の家族連れで賑わいました。

三寺まいりは、親鸞聖人（しんらんしょうにん）のご遺徳を偲んで、円光寺、真宗寺、本光寺をお参りする習わしです。明治時代からは糸引きに行った工女たちが帰省し、着飾ってお参りをして、男女の出会いの場となっていたことから、良縁を祈る行事としても受け入れられています。

この日、瀬戸川沿いでは、赤と白の和ろうそくに灯りをともし「千本ろうそく」や「とうろう流し」があり、参加者がゆらめく炎に手を合わせる姿や、恋愛成就を願うとうろうが瀬戸川を静かに流れるなど、町は幻想的な雰囲気にも包まれていました。



1/17 より 名古屋大学大学院環境学研究科と連携・協力協定結ぶ より利用しやすく持続可能な地域公共交通を目指す

国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学大学院環境学研究科と市が、「地域公共交通に係る連携・協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、市の公共交通の利便性の向上や観光産業とからめた利用の促進など、市が抱えるさまざまな課題を解決し、市民にとってより利用しやすく分かりやすい、持続可能な地域公共交通の構築を目指すことが目的です。

都竹市長は「市民の皆さんに喜んでもらえ、良かったと言ってもらえる路線を作りたい」などとあいさつ。同研究科の山岡耕春科長は「公共交通機関をはじめ、市の持っている課題の解決に貢献し、市の発展に貢献していきたい」、同科附属持続的共発展教育研究センターの加藤博和教授は「結果を出すことが私の責務なので頑張っていきたい」などと話されました。



1/18 パンフレットや紙芝居などで宮川町のこと、もっと知って

宮川小学校の4年生以上の児童7人が、宮川町の歴史や文化などについて紹介するパンフレットをそれぞれ自作し、飛騨市図書館や観光案内所、郵便局や飛騨まんが王国など約20カ所へ届けました。

2学期の総合的な学習の時間に「宮川っ子探検隊」として、児童らが思い思いに取り組みたいテーマを決定。それぞれの分野に詳しい地元住民に自ら連絡して講師を依頼し、教えてもらったことや資料で調べたことをまとめました。

郷土料理をテーマに取り組みだ6年生の幅圭吾さんは「宮川町のことを他の地域の人に知ってもらいたいという気持ちで作りました。インタビューもして、詳しく書きました。読んだ人が分かりやすいよう気を付けました」「宮川町のことをたくさん知ってもらって『宮川町へ行きたい』『宮川町はすごいな』と思ってもらいたい」と話していました。





飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。

まちの話題
いろいろ

1/20

地域の文化財を火災から守る

特レポ

「文化財防火デー」を前に市消防本部は、古川町袈裟丸の慈眼寺で「消防訓練」を行いました。万一の火災に備え、文化財の所有者と消防隊との連携を確認して消火活動を迅速に行い、地域住民らに文化財の防火意識を高めてもらうものです。

この日は寺の母屋から出火し、敷地内にある樹齢1000年以上という県の天然記念物に指定されている「鎮護桜」（エゾヒガンザクラ）への延焼を食い止めるという想定で、古川消防署員約20人が参加しました。雪が激しく降る中、本番さながらの熱のこもった訓練が行われ、区民ら約20人が見守りました。

訓練後、堀田丈二郎署長は「安全に配慮して日ごろの成果が発揮できた。冬は消火栓や防火水槽が凍って使えなかったり、積雪のため活動障害が予想されるので、そうしたことにも配慮して消火活動に取り組みたい」と話しました。



1/27

（株）日本クアオルト研究所の認定証を授与 さんを8人目の実践指導者に認定

特レポ

「クアオルト健康ウォーキング」の実践指導者に神岡町の車代里さんが認定され、市役所で認定証授与式が行われました。

この日は「市健康ウォーキングガイド協会」の牛丸洋子会長らも同席し、認定機関の（株）日本クアオルト研究所に代わって、都竹市長が車さんに認定証を授与しました。

市内の実践指導者は、車さんで8人目。車さんは一昨年7月から参加し、これまでにいった57回のうち、45回も参加しているそうです。

クアオルト健康ウォーキングは、「気候性地形療法」という自然の力を生かしたウォーキングで、近年全国各地で取り入れられています。同協会からは、来年度には眺望や神社巡りも楽しめるコースを新設したり、飛騨市ファンクラブの活動に加えてみてはどうかといった、さまざまな提案が出ていました。



1/29

飛騨市シルバーリハビリ体操スタッフ養成講習会 リハビリ体操を通して元気の輪が広がる街づくりを目指して

特レポ

リハビリ体操で元気の輪が広がる街づくりを目指そうと市が昨年開催した「シルバーリハビリ体操スタッフ養成講習会」のフォローアップ研修がハートピア古川で行われました。

県理学療法士会理事の岸本泰樹さんが、筋力アップや転びにくい体づくりに向けてさまざまな体操を指導し、また加齢によって起こる「フレイル」についても説明しました。

岸本さんは「バランスを崩して転倒するのは、とっさの時の反応が鈍くなったため。肝心の時に力が発揮できるように日ごろから体を鍛え、また地域の皆さんに適切な体操を選択して教えてあげて」などと話しました。

参加した古川町の清水幸子さんは「リハビリのおかげで座ったり、走ったり、階段も楽でこわくなくなりました。町内の老人会にも声をかけて、シルバーリハビリ体操を行事の一つに加えたいと思います」と話していました。

